

次世代につなぐ

進む企業の社会貢献

—18

を元気にするためにまず学生が元気になることを考えた」という鈴木繁三社長が開催を大学に提案した。

コンテストでは主催者である大学の理事や教授、同社の研究者がアイデアの斬

テスト入賞者を対象に独自の支援もしている。入賞者のアイデアを事業化の可能性の有無で審査し、脈ありと判断したものには研究費を支給する。順調に進めば

同社が新事業として取り組

む可能性もある。審査では学術的視点とは異なる角度からの鋭い質問が飛び、参加者から「大学では学べない貴重な経験ができた」と感謝のメールが届くほどだ。「起業精神は

届くほどだ。「起業精神は

割も担う。

6月には10年度のコンテストで2位入賞した大学院生に、事業化可能性第1号として200万円の支援を決めた。テーマは「ヒトの皮膚を利用した新規発電システム」。土日もアルバイトをせずに研究に専念できるよう支援金に加え本人の普段のアルバイト代以上の時給を別途支給。今後とも「支援はより実効性の高いものであるべきだ」という鈴木社長の信念を色濃く反映した活動を続けていく。

（岐阜・藤井まゆ子）

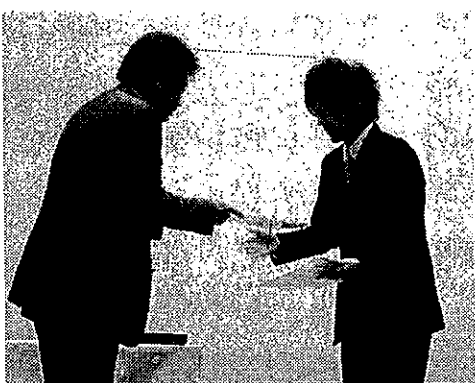
岐阜大学には環境や健康をテーマに独自のアイデアを募るコンテスト「ドリームプロジェクト」がある。2009年から在学生を対象に年一回開催。入賞者には学資金として合計約100万円が贈られる。このコンテストを全面的に支援するのが、岐阜大発のバイオベンチャーのコンティグ・アイだ。同社は酵素や微生物による土壌改良やバイオエタノール生成技術を開発している。「地元

コンティグ・アイ

起業精神を育てたい

新さを重視して入賞者を選ぶ。応募件数は初回は9件だったが、2回目は21件に増加。卒業論文やゼミ研究の延長ではなく、日々の研究から派生した新しいアイデアでの応募が増えている。

「起業精神を育てたい」（鈴木社長）。同社はコン



たとえ企業へ就職するにしても大切」（同）と学生を育てる役

【企業データ】
▽社長 鈴木繁三氏▽所在地 岐阜市正木631の7、058・294・8091▽売上高 1億5000万円（09年10月期）

コンテストで大学生の研究支援